

3月「Sprache」

アントニア・シュルト

1.どんな言葉でも、その言葉しかない表現や言い方があると思います。色々な言語のその表現を知るには特別な楽しみがあると思います。なぜかという、その言語が話せなくても、その言語しかない言い方で、国の文化や人の考え方が反映され、いろいろなことが分かってきます。言葉使いで人の性格が現れてくると思います。意見や考え方を積極的に表すための道具でもあります。そのところをもっと広く考えると、言語のあり方で民族の性格や世界観が表れてくるともいえるのではないのでしょうか。日本語には「木漏れ日」という独特な言い方があります。日本語を勉強し始める前に覚えた表現で、この間、同僚がたまたま使って、日本語が全く分からなかった頃を急に懐かしく思い出しました。あの頃でも、「木漏れ日」ということばの意味がよく分かったような気がしました。なんだか、音だけでなく、そのことばの概念が私の自然の鑑賞感によく合っていて、胸に響いていました。見ている物や感情を言葉にするとき、まずは気づいたり、感じたりしないといけないです。「木漏れ日」ということばの例に戻ると、日本人が環境に対してもっている感受性の証明ととらえてもいいと思っています。

3月「Sprache」

アントニア・シュルト

2.言葉好きな私にとっては感情や状況などをできるだけ詳しく、適切に表現することを目指し、逆に言えば、曖昧な言い方や「向こうが分かってくれるだろう」という態度を避けるように頑張っています。ドイツ人だからという面もあるかもしれませんが、性格も入ってくると思います。言葉遣いで、相手に対して尊重などの気持ちも表せるので、気を使うべきだと思います。最後に、好きなドイツ語の表現を教えたいです。ドイツ語には「Weltschmerz」(ヴェルトシュメルツ。直訳：世界苦)という言葉があります。大まかに言うと、情勢に対して抱く悲観的、もしくは厭世的心情のことを意味します。世界が本来あるべきだと思っている状態より劣っているということで思い悩むことです。自分の言葉で言うと、不完全な世界の一部である不完全な自分が感じている深厚な憂さのことです。

少し、日本語の「ものの哀れ」に似ていると思いますが、「Weltschmerz」の方がネガティブだと感じます。「Weltschmerz」であろうと、「諸行無常」であろうと、生きていることを深く感じるのが大事だと思います。

3月「Sprache」 アントニア・シュルト

3. 少し、日本語の「ものの哀れ」に似ていると思いますが、「Weltschmerz」の方がネガティブだと感じます。「Weltschmerz」であろうと、「諸行無常」であろうと、生きていることを深く感じるのが大事だと思います。